



▲感謝状（右）と木製エンブレム記念楯（左）。ともに参画する全国の地方自治体に贈られるもの。エンブレムを形づくる木製ピースは町産の木材が使用されている。

金山産の木材が 東京2020大会選手村ビレッジプラザに！



＼ビレッジプラザって？／

ビレッジプラザとは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会期間中の選手を支える、選手村の代表的な施設です。チーム歓迎式典、花屋・雑貨店等の店舗、カフェ、メディアセンターなどが配置され、認証を受けたオリンピック・パラリンピックファミリーやメディア関係者が多く訪れます。大会開催には欠かせない施設であると同時に、木造の仮設建築物とすることで、後利用のしやすさと持続可能性の実現を目指しています。

「日本の木材活用リレー」みんなで作る選手村ビレッジプラザ」プロジェクトの事業協力者に金山町が選ばれ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック選手村ビレッジプラザに町産の木材が利用されることとなりました。当町の木材を含め、全国42事業協力者（63自治体）から提供された各地域の木材を使って、日本の伝統・文化を感じることでできるビレッジプラザが建設されます。

本プロジェクトでは、ビレッジプラザの建設にあたり、全国各地の木材を様々な部位に使用することで、東京2020エンブレムのコンセプトである組市松紋の「多様性と調和」を表現する建物を目指す。世界各国から選手が集まる自国開催のオリンピックで、施設の一部に金山産の木材が使用されることはとても誇らしいこと。町民の皆さんにとって、より身近に感じられる大会となりそうです。

指します。加えて国産材の使用は、林業の再生や森林の適正な整備、地球温暖化の防止につながるもの。オールジャパンで大会を盛り上げながら、持続可能な地球環境の保全にも役立てられます。

木材は、金山町森林組合の協力を得て、町が無償で大会組織委員会に提供。構造用製材として最大60㎡使用されます。提供した木材は、大会終了後に返却され、町内の公共施設において、「遺産」として活用される予定です。